

法雲寺
2009/12/25発行
兵庫県東丹波郡香
美町村岡区村岡
2365

「むかわり」考

一周忌の事を当地方では「むかわり」とも言います。でも、「むかわり」って、何かおもしろい響きがある言葉ですね。

住職になりたての頃は「おばあさんのむかわりで・・・」と言われても、何の事かすぐにはわからず、「一周忌のことですわね？」と聞き返した覚えがあります。

一周忌の事は「むかわり」と言いますが、3回忌や7回忌はむかわりとは言わないようです。方言なのかなと思っていたのですが、辞書にも「むかわり」が載っていました。

【むかわり】：むかわること。一ヶ月・一年経って巡ってくる事、回って向いてくる。報いて来る。輪廻、一周忌・・・とありました。



7回閏月(13月)があり、このずれを修正していた。人は母の胎内で生を宿し、生まれるまでに「十月十日」掛かると言われてきました。旧暦の一月が30日ならば、日数にして(30日×10月)+10日で310日になります。すると360日 310日。旧暦の一年に50日程足りませぬ。この50日の差が少し気になります。

人は亡くなって49日後に次の生まれ先が定まると言われますが、ひよっとしたら、一年(360日)とお腹の中に居る期間(310日)、その間に有る差を埋めるのは中陰(四十九日)ではないかと想像をします。そう考えると、一周忌は故人が亡くなって四十九日で新たな生まれ先が定り、それから十日経った時にするわけですから、故人の魂宿した新しい命が、ちょうど何処かで誕生している頃と重なります。(人として生まれ変わるならば・・・)

それ故、一周忌の事を、「魂を包む身が変わる」「身が代わる」「むかわる」「むかわり」と言うのではないのでしょうか？

ですから、一周忌の法要以降

は在りし日の亡き故人の事を偲ぶ事即ち、どこかに「身が代わって」(むかわって)誕生しているで有るう新しい命の誕生の祝福と、その新しい命に対して「元気で生きるよ！」と無事の成長と安穩を祈る集いで有るとも言えます。

お互い様
我々にも多分、前世の生が有ったのでしよう。そして六道輪廻を繰り返しながら、今、幸いにして人身に魂宿し生かされている訳です。これは与えられたチャンスであり、この生を有効に活かして自らを高めて、やがてまた巡ってくる次の生では、尚一層高い次元の生と縁が持てるように努める生き方が理想なのではないでしょうか、幸いにとは言いますが、人の人生もまた楽なものでは有りません。

次々に出てくる四苦八苦に苦しみ、際限の無い欲望や悩み・・・それでも、今こまで様々な障害を上手くかわしながら人間として生きながらえて来られたわけですから、自分の力だけで生きて来た人は居ない訳で、親族を始め周りの人々の手助けやお世話のことで、それだけでしょ

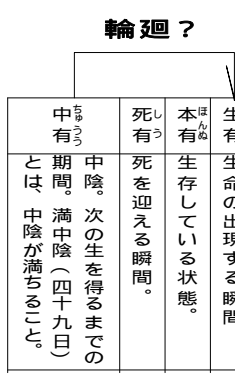
目にする事は出来ませんが、

縁という形で前世で関わりの有った人々から、「むかわる」前の自分を思ってくれる気持ちにも後押しされて、今日まで来られたのかも知れませんか？

「おかげ」は頂くばかりでは申し訳有りませぬ。六道輪廻を繰り返す者同士、「お互い様」の気持ちでかりそめの浮世で授かった縁とはいえ、自分がお世話できる立場になれば、当然そのお返しはさせて頂ければ理屈に合いません。

人には亡き人を思う事が出来ます。現世で人の身を与えられた者の勤めとして、浮世で縁が持った人々を偲ぶと事により故人の魂を引継ぎ、何処かに「むかわった」次の新しい命の無事を応援する。この「お互い様」と「おかげ様」の気持ちは未永く持ち続けたいものです。

ご参考：「四有」(一つの生が経る四つの段階。)





平成21年の年も押し迫ってきた。昨年の今頃は「百年に一度の経済危機」とか？テレビなどでは、しきりに人々の不安を煽り立てる事ばかり言っていたように思えます。

必要以上に人々の不安を無責任に煽り立てる世の中の流れや仕組みに対して腹立たしさを感じます。あまたに溢れる情報に踊らされぬようご用心・ご用心です。

さて年も改まつて来年は平成も22年寅年。相変わらずのものですが、干支の絵馬と、角大師のお札を準備しました。

絵馬には願い事など書いて、神棚や仏壇の片隅にお飾りください。角大師のお札は古いものと交換



絵馬は神棚や仏壇の片隅に、お札は用心が気になるところに…



去る9月21日に秋の彼岸会を地檀家28名の参列を得て行いました。村岡では秋祭りが彼岸会の中に変更となり、お彼岸の雰囲気も年々

彼岸会・お大師講開催

例年大晦日となると決まって吹雪となつていますが、除夜の鐘をうかと思ひます。

＊期日：1月1日午前0時前

除夜の鐘

（このお札、山名蔵拝観者の方々に結構人気です。）

絵馬・お札共に御不用となったものは、地域の注連縄焼きの時や、社寺の古札奉納所等に収めて下さい。

来年も皆様にとつて平穩無事な一年で在ります様に祈念申し上げます。

して頂いても、用心が気になる別のところに貼り付けて頂ければ結構です。今年は版木を新しくしましたので、昨年のものに比べて鮮やかに刷れています。

毎月2回（1・15）練習を重ねてきた御詠歌の法雲寺支部ですが、10月8日に行われました西日本大会で舞台に上り、日頃の練習の成果を発表いたしました。

8日の大会当日は台風が接近する荒れ模様のため、大会は予定に台風は進路を外れ、大会は予定通り開催されました。

御詠歌西日本大会出場



好評を頂いております。改めて感謝申し上げます。

参拝椅子に感謝

薄れつつありますが、彼岸会では動行式を参列者皆でお唱えし先祖追善のご供養をさせて頂きました。

また、11月15日には、法雲寺大師講を開催し、約45名（お当番含む）の方々に参列願ひ、天台宗の高祖・天台大師の報恩謝徳の法要を致しました。法要後は、意図交換を行ったり、齊食を共にしました。当番地区の板仕野・野上・東上の皆さんには感謝申し上げます。

参拝椅子に感謝
両行事とも黒田様（八鹿）・太田垣様（宝塚）からご奉納頂きました。

天台宗から「檀信徒手帳」が発行され、兵庫教区では檀家各家に1冊の配布がなされました。

参拝の際などお持ち頂ければと思います。



檀信徒手帳

「この秋は何度か上鹿田橋から二峠に向かう里道を歩こうと山に入つたのですが、里道は荒れ放題で、自分で道を切り開いて進めぬことは前に進めませんでした。何故、里道を歩こうと思ったかは、壺谷・桜山・二峠と三箇所ある山名公の廟所を巡る散策路が整備出来ないかと考えたからで降つてしまひました。



ですのでご興味のある方、練習にご参加下さい。



右：発表後ホッと一息
左：御所内での一枚

通り開催されました。参加会員の皆さんは緊張の中、心をこめた御詠歌を披露して頂きました。

里道の活用

「この秋は何度か上鹿田橋から二峠に向かう里道を歩こうと山に入つたのですが、里道は荒れ放題で、自分で道を切り開いて進めぬことは前に進めませんでした。何故、里道を歩こうと思ったかは、壺谷・桜山・二峠と三箇所ある山名公の廟所を巡る散策路が整備出来ないかと考えたからで降つてしまひました。